

## 『関西企業ヒストリア』 ~その強さの秘密・転換点を探る~

創業から70年以上の歴史を重ねる会員企業を取りあげ、 時代の荒波を乗り越えて、長い期間にわたって生き残り成長してきた 強さの秘密、その歴史の転換点を探ります。

# 第32回 創業 1916年(大正5年)株式会社 新免鉄工所

### 自宅の一角にて創業、そして工場閉鎖 戦争に翻弄された創業期

1916年 ▶ 新免鉄工所は、創業者の新免五郎市が 1916年、大阪市西区の自宅に旋盤1台を据え付けて事業を開始しました。9年後の1925年には大阪市港区に移転。旋盤も 10台に増設しました。

時代が昭和へと突入し、順調に工場を拡大、発展を遂げていましたが、やがてその日常に戦争が影を落としました。1945年、アメリカのB29の大編隊の空襲により、大阪市内及びその周辺は焼け野原と化し、ほとんどの家屋は壊滅し、死者数万人を出しました。そのような悲惨な状況の中、新免家の工場も閉鎖の止むなきに至りました。

終戦の翌年である1946年、焼け跡から掘り出した5尺の正面旋盤を知り合いの尼崎の工場に据え付けて営業を再開。 脱穀機の組み立てや、ブルドーザー部品の機械工作を請け 負いました。これを基礎に仕事を集め、戦争によって壊滅状態となった生活を立て直すことに専念しました。



繋栄町工場(1916年)



#### 今の基礎となった 溶射を始めた動機と変遷

**1947年** ▶ 1947年、近畿鋼業所を設立して、サンドブラスト、メタリコンの作業を開始。これが後に再開した新免鉄工所の基礎となり、今日の業態の主核となりました。

当時、サンドブラストやメタリコンについてまったく未知の世界ではありましたが、尼崎にあった富士越メタリコンという会社の工場を拠点にして、指導を受けながら仕事をしていきました。

メタリコンの仕事は、利潤は多かったものの受注は決して多くなく、塗装のための下地のブラストが防錆の前処理に認められつつありました。塗装が工業的に仕事量の多いことに目を付け、造船、橋梁、鉄鋼構造物、重電機器、自動車工業等のブラストのみの仕事に進出しました。

メタリコンの業界に参入した当時は研究機関もなく、手探りで研究し仕事を進めていきました。会社の成長期には、納期に間に合わせるため徹夜をしたり、正月も休まずに仕事をするなど、一歩一歩、血と汗の滲むような努力で土台を築いていきました。



二代目である新免眞一氏と正面旋盤

1951年、近畿鋼業所を解散し、株式会社新免鉄工所を設立。待望の再建の夢を果たすことができました。戦前からの縁故の職人を呼び集め、受注先を探し、法人組織にして一からのスタート。再開したものの、次々と難関が起こり、それらを一つずつクリアして前進していきました。これが今日の基礎となり、順次発展、拡張して現在の基盤を形成。機械切削加工を主体に、サンドブラスト、メタリコンの作業を受注するようになりました。



千舟工場 第3期增設工事(1962年)

#### 千舟工場の建設 画期的な公害防止設備の導入

1957年 ▶ 1957年、大阪市西淀川区千舟に第二工場を建設、表面処理専門工場として稼働させました。これが現在の本社工場です。この千舟工場を次々と増設し、最大20トンの大物まで加工可能になりました。表面処理につきものの粉塵公害にも完璧な大型集塵装置を設置し、西淀川区の厳しい環境規制にも充分に対応できる設備を整えました。

東京オリンピックが開催された1964年、戦後の復興から新しい建設と投資設備により、新免鉄工所は急速に発展していきました。その折、新免鉄工所では公害防止設備を導入しました。まずはじめは排風機のブレードに水をかけて噴霧状態にする「水掛け方式」です。ブレードで叩かれた水は噴霧状になって粉塵とミックスされ、泥状になり下の水槽に落下。それにより集塵効果を挙げました。しかしこの方法は集塵効率が悪く、大きな粒子は落ちるものの、ミクロンサイズの粒子は水と混合せず、空中へ吹き上げてしまいます。水槽に落ちた泥水は数段の槽をくぐって濾過し、下水に流れ出る仕様です。濾過槽に溜まった泥は週3回バキュームで汲み上げ、埋め立て地へ運ぶ必要がありました。

2つ目は「バックフィルター式大型集塵装置」です。新しい方式の装置を設置することによって粉塵公害も解決したうえ省力化にもなり、濾過槽に溜まった泥を汲み上げる必要もなく、排出についてまったく心配不要となりました。総額5,000万円の社運を賭けた投資ではありましたが、年々厳しくなる大気汚染の規制基準に対して、今なお問題なく稼働し続けています。

#### "100年錆びさせない" 100周年を迎えた新免鉄工所のプライド

2017年 ▶ 平成になると明石海峡大橋や国立天文台ハワイ観測所など、大規模施設の表面処理工事を受注するようになりました。千舟工場では、総重量18t、最大長さ17mまでの大型構造物の施工を得意としています。近年では特に高速道路などの橋梁の受注が多くあります。

また、福岡北九州高速道路公社 (FKD) から発注を受けた 福岡都市高速5号線の防食溶射施工が発端となり、2000年11 月に防食溶射協同組合を設立。日本溶射工業会の防食溶射委 員会から30社が結集してのスタートとなりました。

2012年には尼崎工場を新設。これにより下地処理から防食溶射、塗装、出荷まで、ワンストップでの対応が可能となりました。

2017年、新免鉄工所は創業100周年を迎えました。同社が世に送り出した様々な製品は多くの人の目に留まり、その姿は何年にもわたり存在していきます。同社が行う表面処理加工は、錆・防食といった問題を解決し、美観を保つことができます。100年後も送り出したそのままの姿であり続けられる、新免鉄工所はそんな製品づくりを続けていきます。



新免鉄工所のロゴマークは、創業者である新免五郎市氏の名前から五の文字を取り、家紋である亀甲紋と組み合わせた意匠です。

#### 株式会社 新免鉄工所

本社所在地: 大阪府大阪市西淀川区千舟 3-9-7 従業員数: 60名 資本金: 1,000万円

事業内容: ブラスト加工、溶射(ガス/アーク/プラズマ) 焼付塗装(液体型/粉体型)、レーザー事業